御當家謡歌合

544
ホ
22

544
オ
22

市蔵灌歌合

一番

左　持　山家秋人

若みやまの末はかすみのうすくなる　秋の夕の

右　野径亭主

秋ちかしやうすき桂のうすくして　天の川原と霧ぞ

豊葦原の国のなかにひとしく　雲はなし

千人の人のこころもくもりなく　月をぞ

ながめ　ぬるかな　ひとりぬれども

とはいふなりといひあつまれ

ぬるとも人しるこゝろ

あるさまなりの山の人のこゝろ

の五門に市のひとをれたる方葉

集世にあり人の心をひらく

まことにこゝろをくだきたりこゝの紀

貫之の凡河内躬恒のうたこゝろ

の古今集にそなへたるかゝ

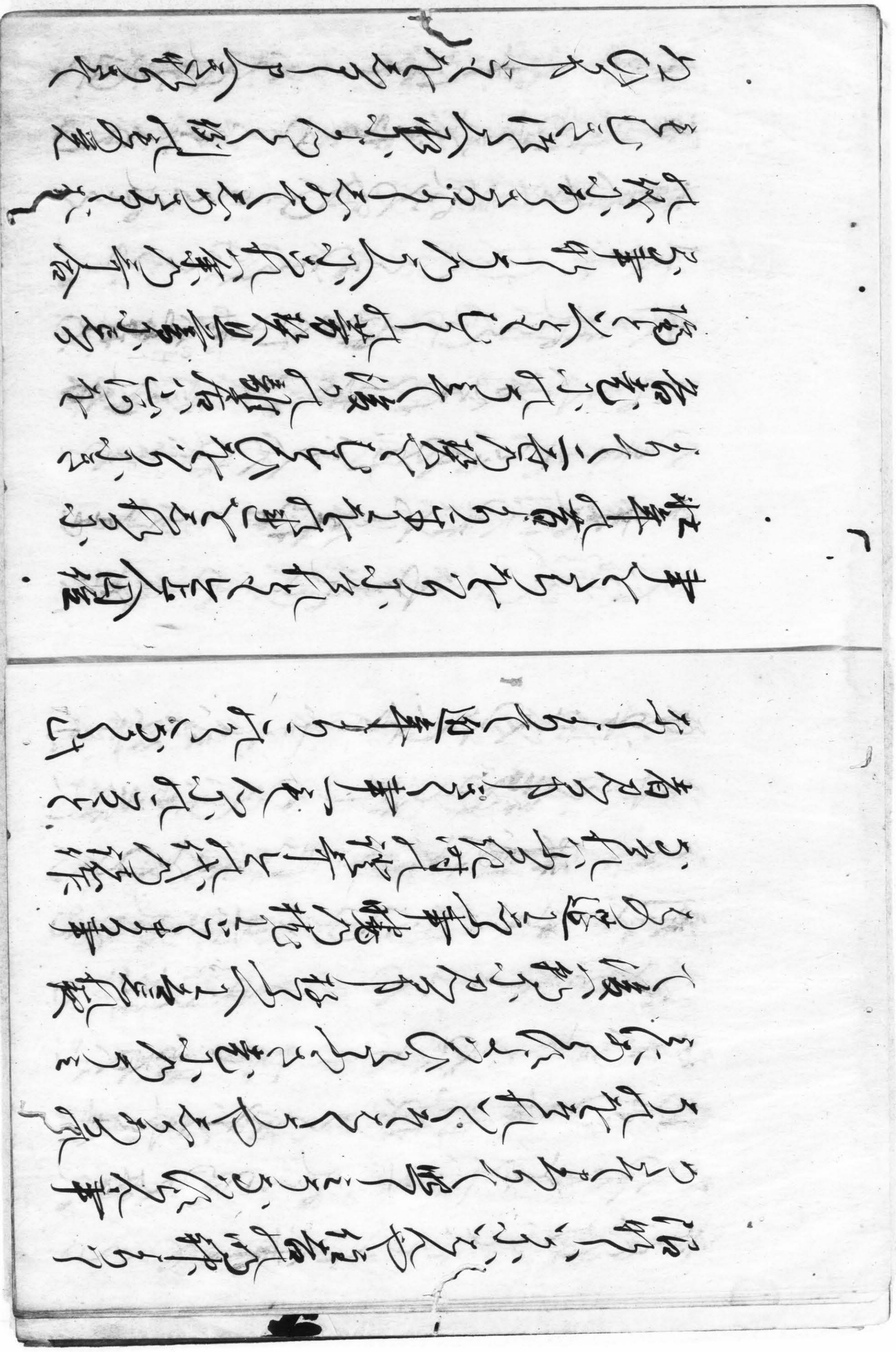
為定となりて集の内にあり

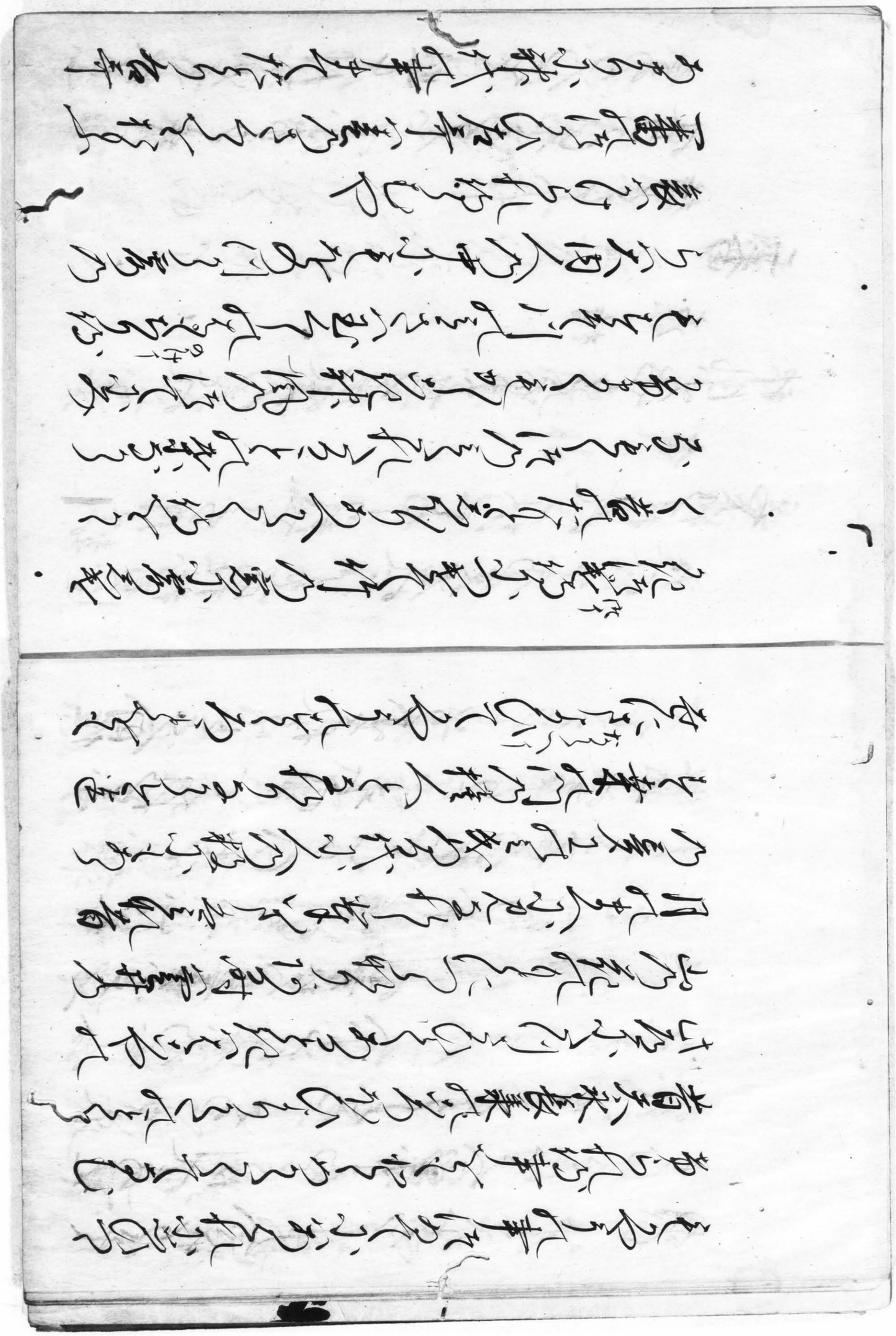
あるひは法ふかくをんなふたなく或は
たゞうの花のうへにひ殘りのふうに或
商人の妻なるべきうたいひ男女
の法ふやとうのうとこゝろ宋乃
心をこゝふ撰集ふ法さくの年のを
うをいふうたとうてうふうてうの
をとをいうえうなうへしの時り
後撰集大納言公任さくうたをを
見て或今年あまり大法ひの方を

ひとをあるひをうちあまり六乃方人
ををうふうのうの九ふの方をうさ先
うふ宋をふうの持く古今集の方
とあるを上うと京ふあをうをとを下っ
下ふ宋をうさ宋乃さくひうさひ
ひふもしをれまあへれ先達をと宋
をうふ宋あるふ代の人方方九
うあうをふ宋ふをてうのさうひり
いうを程をふうふあなり称方合を

云ものゝ上古ハ人もあり名しをもつて
ほとんどうつや音信門に待ちて
ものをれ人にあるべからまけをも
ほ節られたるあり人勝負をつきなう
判乃と紫ハ元ちさ村と元待天慧乃
手合りて判乃と紫ハ紀之ろされ
て後 永形 兼暦ハ内裏元手合
なるひハ私乃以くハいくるまて後
負と付ものもとにあるいれハ

ものをたをうまて或給ハ
ほとく結ぶと様しあるひハ靈社に
をて神感をかたらはる元をしをひ
判をうをしるあるひハ且ハと元忌考
ハいくるまてくるとくあるれ弦ま
なひをくるハとくあるれハ勝負を
はもる事既数なくあハ多く倩
こ乃ものとハ且ハこれものハ賢元
なれけハ人ものをれん事をめものも





[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

まうせて宜しき祈なり左八祈りくハ
とゝ紀美之れしと云うるうて紀姿
ふ[illegible]紀美祈ふれ[illegible]てとゝ下あひ[illegible]れ
ひいらく武こゆるなりうとて市
くうちふいうたん紀ふくまんと
せハ[illegible]れいさう事あるうへしられいく
きうこ紀乃ゆなり姿ハ注不れ祭
らへくれと

八番

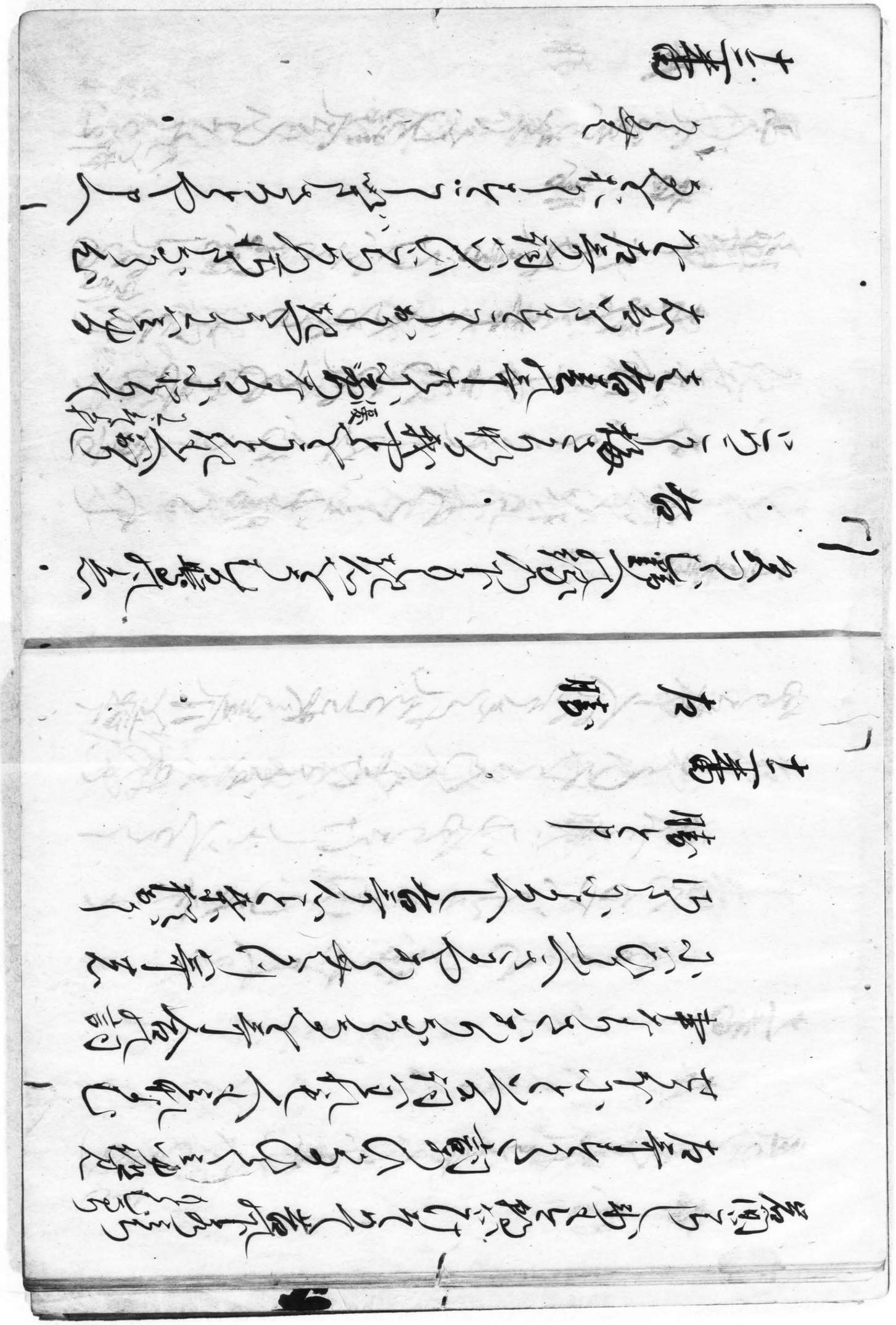
右勝

[illegible]れ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ

[illegible]

[illegible]

[illegible]



[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

右　勝

右

[illegible]

右　勝

[illegible]

二十番

右

[illegible]

右　勝

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

右之ものこれを要ずる沙汰
申うけたまわる諸ふたり勝と判じ
廿三番
左 持
大原の雪の朝を見れば雪降積りて実に
右
持時うつむき雪にうもれる竹柴の
左 八十ぢの翁ふみわけてうぐいすを
聞てたづねけるかとへば
廿四番
左
数々の花を折りてたづねそ分
右 勝
ものとやこの花を折て独せる漁
夫の首の悪ふんふんとこたえ
廿五番
左
雪降りてあり合て関の勝へや

[illegible]

[illegible]

[illegible]

廿七番

左

今こそ風の音ばかりは聞くとても

右　勝

物思へば今ぞ知るなれ

左を分てなくなく

なりぬるとぞ

廿八番

左　持

歌けそ月や西にかたぶくまで我猶

右

知らぬ恋路に月ぞ入

夜ぞふかく姿なりし特

とぞ

廿九番

左　持

明ぬれば天川原とぞ音なるの秋の

右

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

右

[illegible]

[illegible]

[illegible]

一校

九州大學圖書印

百卅八